

ガストロノミックツーリズム in 北海道

～食と文化の観点から地域を見つめ、北海道を学ぶ旅～

第9話 「十勝」

遊佐 順和 (ゆさ よりかず)

公立大学法人旭川市立大学 地域創造学部地域創造学科 教授

東京都出身。北海道大学大学院教育学専攻修了。大学卒業後、日本フィルコン株式会社、池脇会計事務所、AIR DO北海道国際航空株式会社、株式会社ホテルオークラ札幌などの勤務を経て、2010年より札幌国際大学に奉職し、2025年より現職に就く。本務の傍ら、内閣府地域活性化伝道師、北海道住宅供給公社理事、旭川市工芸センター運営委員会委員、旭川市国際交流委員会委員、一般財団法人北海道開発協会評議員、一般社団法人和食文化国民会議全国「和食」連絡会議「和食」地域特派員なども兼務する。



今回は農業王国「十勝」の中心地帯^{おとふけ}広市や音更町をご紹介します。十勝農業は1666(寛文6)年、松前藩が「ビロー場所」を設け、和人が十勝アイヌと交易を開始し和人による十勝開発が始まりました。その後、1869(明治2)年に開拓使が設置され、71(同4)年に静岡藩より農家数戸が入植、83(同16)年には静岡県より依田^{よだ}勉三氏を中心とする「^{ばんせいしゃ}晩成社」が帯広に入植し、本格的な十勝農業の幕開けとなりました。まちなかを流れる十勝川近くの中島公園には、依田勉三氏の銅像と晩成社の説明板が設置されています。公園の近くに、珈琲と充実したスイーツを提供するカフェや、至福の空間で本格的に紅茶を味わえる紅茶の店もあります。

帯広のまちなかで豊かな緑に囲まれる老舗銘宿の一つ北海道ホテルでは、^{しにせ}煉瓦の外壁、木の温もりが溢れる趣深い^{しつり}設えで、近代フランス料理の祖オーギュスト・エスコフィエの料理術や精神を伝える一般社団法人エスコフィエ協会より「^{はやま}ディシプル(弟子)」の称号を受ける羽山正彦^{はやま}総料理長、大野^{おの}公嗣洋食料理長などが腕を振るい、十勝食財の持ち味をあますことなく美しいスペシャルティの一皿に仕上げ提供されています。館内レストラン「^{おい}バード・ウォッチ・カフェ」では、美味しい食事や珈琲をいただきながら、前庭を駆け回る可愛らしいエゾリスたちと出会うこともでき、ゆったりとした至福の空間で非日常のひとつときを紡げます。



東3南2 中島公園「依田勉三氏の銅像、説明板」



東3南3 CAFÉ GREEN「店舗入口、カフェラテ、スイーツ」



東1南3 DARJEELING「店舗外観、看板、ダーズリンティー」
※本格的なアフタヌーンティーもいただけます



西7南1 森のスパリゾート 北海道ホテル「ホテル外観、チャペル、前庭を駆け回るエゾリス、洋朝食」

十勝の豊かな恵みが育む日本の銘菓

六花亭では、北海道の代表的な菓子といわれる「マルセイバターサンド」をはじめ、各種銘菓が全国から注目を集めています。バターサンドの包装には十勝開拓の先駆者、依田勉三氏が率いた晩成社のバターラベルのデザインが使われています。同社銘菓はパッケージは変わらずも、中身の菓子は常に原材料の配合、焼き加減はじめ細部に至るまで日々研鑽が積み重ねられ、進化し続けています。「お菓子は地域の文化」との考えのもと、同社では製菓とともに、中札内村の「中札内美術村」や庭園「六花の森」、札幌市の「ふきのとうホール」などの文化事業にも力を入れ、地元が誇りに思い、地域から愛される菓子店を目指しています。

十勝にはもう一つ北海道の代表的な銘菓に、音更町の柳月「三方六」があります。三方六は、薪を型取り、白樺のような美しい模様が描かれた縦型バームクーヘンで、俳優 森繁久彌氏（故人）が永年こよなく愛されたこともつとに有名です。「道の駅おとふけ なつぞらのふる里」とともに立ち並ぶ柳月スイート・ピアガーデンでは、広々とした店内に工場やカフェも併設され、三方六の商品誕生の沿革や製造行程を見学でき、工場直販ならではの三方六の端っこ（その日により時間や種類別に個数限定）や同店限定販売の商品を購入することもできます。

十勝名産の赤いダイヤと言われる「小豆」は、老舗和菓子店が数多くある京都でも、古都の食卓を彩る銘菓には十勝産小豆が重用されています。創業500年を数えわが国の代表的な和菓子店の虎屋では、和菓子の原材料には天然素材にこだわり、十勝産小豆は同社の代表的商品の羊羹や各種銘菓において、暖簾を支える非常に重要な一役を担います。



西2南9 六花亭帯広本店 「店舗外観、山岳画家 坂本直行氏が描いた山野草の紙袋とマルセイバターサンド、スイーツ」



音更町なつぞら1 柳月スイート・ピアガーデン 「工場外観（商品販売店、カフェも併設）、三方六の端っこ」



音更町なつぞら2 道の駅おとふけ なつぞらのふる里 「店舗看板、竹中ファームのリーキ（西洋ねぎ）」



京都市上京区一条通 虎屋菓寮京都一条店「店舗外観と設え、茶菓」



京都市下京区四条通 亀屋良長本店「店舗外観」
（※同店に湧く名水「醒ヶ井水」を原材料の一つに京菓子を創作）

スロウフードを通じて「帯広の食^{ひも}」を紐解く

帯広の取材時、友人知人に帯広ならではの味や、まちに欠かせない味を尋ねたところ、誰もが必ず名前を挙げる帯広スロウフードを幾つか探訪しました。

帯広といえまずは「豚丼」、甘辛いタレで焼かれた豚肉がたっぷりと熱々のご飯にのり、丼ぶりが登場しただけでもお腹も心も満たされます。豚丼は店舗も多く、各店とも独自のタレや調理法にもこだわりがあります。店舗やお弁当で購入して味わうこともでき、帯広を中心とする十勝の旅では定番の味わいです。

友人知人などに強く勧められ、地元の方々にとって欠かせない味という焼肉屋、まんじゅう屋に飛び込みで訪問しました。いずれも順番を待つ常連客に続く食事や購入となり、実際に喫食して素材にこだわるその味わいや手際よくきめ細やかな接客を受けて、永年にわたりこよなく愛される訳を実感しました。高橋まんじゅう屋さんでは、とても優しいご夫妻と歓談ができ、温かみ溢れる笑顔に安堵しながら、帯広まち並みの変遷やお客様の嗜好に至るまで時代の変化をととても丁寧に話してくださり、同店の暖簾の厚みを感じました。

インディアンカレーでは、一度食べるとリピートしたくなる味わいを実感するとともに、地元の方が鍋でカレーを買いに来るとい話を実際に拝見することもできました。カレーを食べ、同店のカレーは帯広を離れたみなさんが、地元に戻るとどうしても食べなくなる味であることも実感しました。もう一軒、ネパール人アディカル・アルジュン氏が営むネパールカレー「ビスターレ ビスターレ」もご紹介させていただきます。同店は現在、帯広を拠点に北海道とネパールの架け橋となるべく、「食」による経済活動も展開しています。アルジュン氏とは2001年大晦日^{おおみそか}の



西1南10 帯広はげ天本店「店舗外観、豚丼」



大通南12 焼肉の平和園本店「店舗外観、平和園カルビ」



東1南5 高橋まんじゅう屋「店舗外観、お焼き」



西2南10 カレーショップインディアン まちなか店「店舗外観、インディアンカレー」



西19南2 ビスターレサティ「ネパールカレー、店内設え」



北海道新聞から、来日して留辺蘂町でホテル修業に勤しむ紹介記事を通じて知り合いました。大学の卒業旅行で首都カトマンズやその北方のランタン谷トレッキングで約1カ月ネパールに滞在しました。思い出の国から関心のあるホテル業界で一生懸命に頑張る彼に頑張ってもらいたいとの思いから、ホテル業界でホスピタリティ関連の著書を多くもつ橋本保雄氏（故人・元ホテルオークラ副社長）の一冊に、手紙を添えてエールを贈りました。知り合った当時ホテルの一スタッフだった彼は、その後に網走で開業し、今や道内11軒の店舗と母国ネパールでも北海道の魅力を発信する飲食店を経営しています。最近では本別町産の大豆を使ったカレーメニューを開発し、十勝の食や自然と人の素晴らしさを世界へ発信しています。

十勝への深い愛情と熱いプライドが溢れるパン

全国で4分の1生産量を誇る十勝産小麦、その十勝産小麦100%のパン製造販売に取り組むますや満寿屋商店は、創業者の想いを受け継ぐ杉山雅則社長のふるさと十勝に対する深い愛情と熱いプライドが、同店のさまざまな種類のパンに込められています。十勝産の「ゆめちから」をはじめ、強力小麦でパンに向く「キタノカオリ」を主力に「春よ恋」「ハルキラリ」「ハルユタカ」、中力の「きたほなみ」など、地元産の小麦を用いたパンが同社各店舗に並んでいます。同社のパンは、十勝では農作業の合間に「おやつ」として親しまれ、十勝全域に広がりました。2009（平成21）年には、帯広市郊外に1万2千平方メートルの国内最大規模の広大な敷地を持つ販売店（ますやパン麦音店）をオープンし、パンの製造販売に加え食育や地産地消を学べる「食」の提案型事業も展開しています。同社ではさらに敷地を3万平方メートルに拡張し、ばん馬などと触れ合える馬牧場も併設し、パン窯も備えたイベント広場も整備することで、十勝ならではの「食」と「馬文化」の発信に力を入れる計画を進めています。

大地が育む食卓を支える恵みの由来に触れる館

ますやパン麦音店の隣には、日本甜菜製糖（株）のビート資料館があります。全国生産量100%を占める甜菜の北海道における栽培歴、各種資料や模型の展示とともに、甜菜輸送のために作られた私鉄・十勝鉄道の歴史に関する資料も展示されています。資料館の見学を通じて、私たちの食卓を支える大切な調味料の砂糖の歴史と今、これからの学ぶとともに、北海道の農業を下支えしている同社の数々の取組みを見つめることができるとも貴重な施設です。



稲田南8線西14 日本甜菜製糖（株）ビート資料館
「施設外観、館内に展示される甜菜の模型資料」

北海道の大切なモノ・ヒト・コトを伝える杜

帯広では、株式会社クナウパブリッシングが同社編集の雑誌『スロウ』や、こだわりの逸品を販売する店舗スロウリビングを通じて、十勝をはじめ北海道の大切なモノ、ヒト、コトに関する情報が発信されています。同誌は北海道で想いをもって暮らす人々や、その方々が創るモノやコトをはじめ、北の大地が育む多くの煌めきをじっくり見つめることができます。

十勝を旅して大地の恵みと古を体感しませんか！



稲田南8線西16 ますやパン麦音店
「店舗外観、十勝産の小麦・チーズにこだわったパン」



西16北1 株式会社クナウパブリッシング
「スロウリビング店舗外観、雑誌『スロウ』の表紙」